

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

- (54) SCHEDULE MANAGEMENT AND PROCESS DEVICE
 (11) 62-152656 (A) (43) 7.7.1987 (19) JP
 (21) Appl. No. 60-292597 (22) 27.12.1985
 (71) SONY CORP (72) SHIGEYUKI YONEYAMA(4)
 (51) Int. Cl⁴. B23Q41/08,G06F15/20

1-1	
a	b
	3
	4
a	b
	3
	4

PURPOSE: To make input and output of desired data easily and quickly, by providing a common schedule table and selecting only schedules associated with a series of jobs from the common schedule table which are to be managed for registering them to a schedule definition table and managing the jobs based on the schedules.

CONSTITUTION: There is provided a common schedule table 1-1 to which common schedules are registered, the common schedules including all the common schedules which are, for example, the least common multiple common to a series of different jobs including schedules which are different especially with the elapse of time (including the cases which are different with the revision of the patent law). Only all the schedules necessary for carrying out a series of jobs are extracted in such a manner that they are selected from the common schedule table 1-1 and they are registered in a schedule definition table 1-2. With such an arrangement, it is possible to create schedules to carry out a series of jobs easily and quickly and to manage them without fail.

1-2				
7	8			
9				
10	11			
12				
13				
14				
15	16	17	18	19
20				
21				
22				
10				

3: omitted common schedule name. 4: common drawing name. 7: country code. 8: division of route. 9,21: schedule number. 10: term regulated by law. 11: division of reference data. 12: schedule name. 13: omitted schedule name. 14: name of drawing. 15: division of start. 16: independent division. 17: schedule period. 18: repeated division of schedule. 19: division of post schedule. 20: post schedule number. 22: schedule definition table. a: common schedule number. b: common schedule name.

- (54) SCHEDULE MANAGEMENT AND PROCESS DEVICE
 (11) 62-152657 (A) (43) 7.7.1987 (19) JP
 (21) Appl. No. 60-292598 (22) 27.12.1985
 (71) SONY CORP (72) SHIGEYUKI YONEYAMA(4)
 (51) Int. Cl⁴. B23Q41/08,G06F15/20,G06F15/46

a	b	
c		
d	e	
00101	840104	001 840102
f		g

PURPOSE: To make the selection of a post schedule easy, by providing an arrangement for registering schedules registered in the past to a management unit file of the job, searching the post schedules of the latest schedule in the schedules from a schedule definition table and displaying a picture to which associated data can be entered for entering data.

CONSTITUTION: At first, schedule names which can occurs after the schedule specified by a schedule number are registered in the schedule number section of a schedule definition table 1-2. In addition, the schedule names with data such as a date are registered in a management unit file 2. A significant schedule registered to the file 2 at the latest time is searched and read out. Then, post schedules corresponding the schedule is read out from the schedule definition table 1-2 and displayed on a display unit. Next, a desired schedule is selected from the plot schedules displayed and a picture to which data associated with the selected post schedule is entered is displayed for entering data such as a desired data thereto. With such an arrangement, a post schedule succeeding to a certain schedule can be managed without fail.

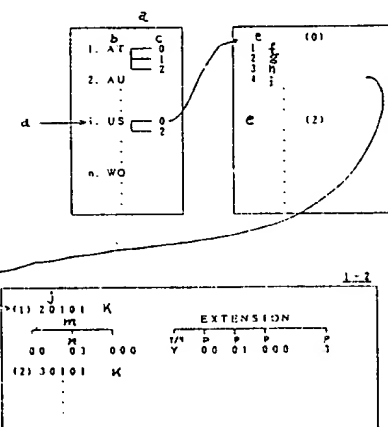
1-2				
b	h			
i				
j	k			
l				
m				
n				
o	p	q	r	s
t				
u				
v				

a: management unit number. b: country code. c: document data. d: schedule number. e: selection date. f: date number. year, month, date. g: management unit file. h: division of route. i: schedule number. j: term regulated by law. k: division of reference date. l: schedule name. m: omitted schedule name. n: name of drawing. o: division of start. p: independent division. q: schedule period. r: repeated division of schedule. s: division of post schedule. t: post schedule number. v: schedule definition table.

- (54) DUE DATE MANAGEMENT AND PROCESS DEVICE
 (11) 62-152658 (A) (43) 7.7.1987 (19) JP
 (21) Appl. No. 60-292599 (22) 27.12.1985
 (71) SONY CORP (72) SHIGEYUKI YONEYAMA(4)
 (51) Int. Cl⁴. B23Q41/08,G06F15/20

PURPOSE: To make a management of a due date effectively without fail, by making an arrangement for providing a due date definition table to which a period of time during which each schedule of a plurality of schedules is carried out is registered and searching the table based on the initial date in reckoning of the due date entered with respect to a designated schedule to calculate the due date.

CONSTITUTION: Data regarding a period for calculating a due date for a particular schedule is read out from a due date definition table to which schedules specified by a country, a schedule name and the like are registered in advance. An arrangement employed is such that the due date of the particular schedule is calculated and displayed based on the data regarding the period read out and the initial date in reckoning entered. With such an arrangement, the due dates of a series of different jobs including a plurality of schedules can be managed without fail by use of a simple system arrangement.



a: country file. b: country name. c: division. d: point. e: US file. f: header definition file. g: term of right definition file. h: number definition file. i: due date definition file. j: definition of US due date. k: receipt of notification for reason of rejection. m: term. n: year, month, date. p: year, month, date, number of times.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-152657

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)7月7日

B 23 Q 41/08
G 06 F 15/20
15/46

7226-3C
P-8219-5B
7313-5B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全13頁)

⑮ 発明の名称 工程管理処理装置

⑯ 特 願 昭60-292598

⑰ 出 願 昭60(1985)12月27日

⑱ 発 明 者	米 山	重 之	東京都品川区北品川6丁目7番35号	ソニー株式会社内
⑱ 発 明 者	池 上	司	東京都品川区北品川6丁目7番35号	ソニー株式会社内
⑱ 発 明 者	藤 井	令 吉	東京都品川区北品川6丁目7番35号	ソニー株式会社内
⑱ 発 明 者	宮 内	重	東京都品川区北品川6丁目7番35号	ソニー株式会社内
⑱ 発 明 者	岩 井	勇 行	東京都品川区北品川6丁目7番35号	ソニー株式会社内
⑲ 出 願 人	ソニー株式会社			東京都品川区北品川6丁目7番35号
⑳ 代 理 人	弁理士 岡田 守弘			

明 細 書

1. 発明の名称

工程管理処理装置

2. 特許請求の範囲

(I) 複数工程を含む一連の作業を管理する工程管理処理装置において、

上記複数工程の各工程に対して後に発生し得る夫々の後工程を、当該各工程に対応づけて夫々登録した工程定義テーブルと、

上記複数工程のうち、過去に選択された工程を登録する管理単位ファイルと、

この管理単位ファイルに最新に登録された有効な工程を検索する履歴検索手段と、

この履歴検索手段によって検索された有効な工程に対応する後工程を上記工程定義テーブルから検索する検索手段とを備え、

この検索手段によって検索された後工程のうち、所望のものを選択して表示装置上に当該後工程に

関連するデータを入力し得る画面を表示させ、所望のデータを入力し得るよう構成したことを特徴とする工程管理処理装置。

(II) 上記履歴検索手段によって検索された全ての工程に対応する後工程を上記工程定義テーブルから検索する上記検索手段を備え、

この検索手段によって検索された工程のうち、所望のものを選択して表示装置上に当該工程に関連するデータを入力あるいは修正・変更・追加し得る画面を表示させ、所望のデータを入力あるいは修正・変更・追加し得るよう構成したことを特徴とする特許請求の範囲第(I)項記載の工程管理処理装置。

(III) 上記一連の作業は特許管理作業を含み、上記複数工程は特許管理作業に含まれる各作業工程であることを特徴とする特許請求の範囲第(II)項記載の工程管理処理装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、複数工程を含む作業を管理する工程管理処理装置に関するものである。

〔発明の概要〕

この発明は、複数工程を含む一連の作業を管理する工程管理処理装置において、複数工程を含む作業の各工程の後に発生する後工程情報を工程定義テーブルの後工程情報記憶領域に登録すると共に、上記一連の作業において、上記複数工程のうち過去に選択してデータを登録した工程をその作業の管理単位ファイルに登録し、この登録した工程の有効なものの中から最新の工程を選択してその工程の後工程を工程定義テーブルから検索して関連するデータを入力し得る画面を表示させ、所望のデータを入力する構成を採用することにより、複数工程を含む作業の後工程選択を容易にするものである。

〔従来の技術〕

一般に時間的に流れを有する作業を管理する場合、

〔発明が解決しようとする問題点〕

従来の工程管理処理装置では、互いに異なる工程を含む複数の作業を管理する場合、複数の独立したシステムが必要となるため全体として膨大なシステムとなり、開発費用のみならず、システムの維持費用も多額になり現実的ではなくなるという問題点があった。

また、互いに異なる工程を含む複数の作業を単一の管理システムを用いて管理しようすると、工程の数は一つの作業に含まれる工程の数の数倍にもなるため、必然的に複雑なメニュー構成を採るようになる。このため、現在入力しようとしているデータが、いずれの作業のいずれの工程のものでいずれのメニューに該当するかを予め知っておく必要がある。誤ったメニューを選択した場合、再び上位メニューに戻ってやり直さなければならず、たとえその作業自体には精通していても、工程管理処理装置のメニュー構成に慣れていないと、所望のデータを迅速に入力することが困難となり、

合、各作業工程で生じたデータをそのつど入力して工程の完了を管理するコンピュータを用いた工程管理処理装置が従来知られている。この従来の工程管理処理装置は、予め起こりうる工程をいくつかのグループに分割し、この分割したグループを更に細分化するといういわゆる枝構造を採用して、全ての作業工程を記述して管理していた。このため、実際にデータを入力する場合には、第1に、最上位のメニューを表示させ、この表示させた最上位のメニューの中から、現在入力しようとするデータに対応する工程の集団を表す下位メニューを選択する。第2に、このようにして選択した最下位メニューに表示された複数の入力画面名の中から現在入力しようとするデータに対応する入力画面名を選択する。第3に、この選択した所望の画面を表示させる。ここで初めてデータの入力が可能となる。そして、複数作業を管理する場合には、上記第1ないし第3からなる手順を夫々独立に実行させる管理システムを夫々独立的に複数個設けるようにしていた。

ましてや作業自体に不慣れな場合には、入力作業は非常に難しいものになってしまうという問題点があった。

更に、各作業ごとに工程の名前や取り扱う情報が異なるため、一つの作業を管理する以上にこれらの複数の作業の全てに渡って精通している必要があり、複数の作業を管理することが極めて困難になってしまうという問題点があった。

また、新しい作業が加わった場合、メニューを作り直したり、プログラムの変更が必要になってしまうと共に、作業手順が確定していない場合、メニュー構成を確定することが困難になってしまうという問題点があった。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は、各工程の後に発生する後工程情報を工程定義テーブルの後工程情報記憶領域に登録すると共に、上記一連の作業において、上記複数工程のうち過去に選択してデータを登録した工程をその作業の管理単位ファイルに登録しておき、こ

の登録した工程の有為なものうち、最新の工程を選択してその工程の後工程を工程定義テーブルから検索して関連するデータを入力し得る画面を表示させ、データを入力する構成を採用することにより、複数工程を含む作業の後工程選択を容易に行って日付などのデータを入力し、誤りなく作業を管理するようにしている。

〔作用〕

次に動作を順次説明する。

第1に、工程定義テーブル1-2に登録した工程番号によって特定される工程の後に発生し得る工程名を、当該工程定義テーブル1-2の後工程情報記憶領域（後工程番号欄）中に登録する。第2に、複数工程からなる作業を管理するために選択して日付などのデータを入力した工程名を管理単位ファイル2中に登録しておく。第3に、この管理単位ファイル2に最新に登録された有為な工程を検索して読み出す。第4に、この読み出した有為な工程に対応する後工程を工程定義テーブル

権利が消滅するまでに必要となる一連の作業を実行するための各工程（手続き）を、共通工程テーブル1-1の中から選択して登録するものである。

管理単位ファイル2は、第12図に示すように、1件の特許出願の管理に関して、その出願の書誌的情報、例えば名称、出願人名、代理人名、第一国出願情報や発明の概要などと共に、各作業工程で発生したデータおよび各工程を選択した日付などのデータを入力して登録しておくものである。

制御部3は表示手段3-1、選択手段3-2および履歴検索手段3-3などから構成され、各種制御を実行するプログラムを格納するものである。

表示手段3-1は、後述するように例えば初期メニューや中間メニュー（ルールブック更新メニュー、中間処理メニューなど）、および共通工程テーブル1-1、工程定義テーブル1-2に登録されている工程名などを表示装置4上に所定の形式で表示するものである。

選択手段3-2は、共通工程テーブル1-1に

1-2の中から読み出して表示装置4上に表示する。第5に、この表示した後工程から所望のものを選択して当該選択した後工程に関連するデータを入力し得る画面を表示させ、所望の日付などのデータを入力する。

以上説明した手順によって、ある工程に続く後工程を誤りなく管理することが可能となる。

〔実施例〕

本発明を特許管理システムに応用した実施例について以下詳細に説明する。

第1図において、ルールデータファイル1は共通工程テーブル1-1および工程定義テーブル1-2などから構成されている。

共通工程テーブル1-1は、各工程例えば特許法の異なる複数の国に対する事務処理に関する最小公倍数的なすべての工程（出願、審査請求など）を登録するものである。

工程定義テーブル1-2は、一連の作業例えばアメリカ合衆国の特許商標庁に特許出願した後、

登録されている共通工程中から、所望のものを選択して工程定義テーブル1-2中に登録するものである。

履歴検索手段3-3は、管理単位ファイル2に登録されている工程から最新の有為な工程あるいは全ての有為な工程などを検索するものである。この検索された工程の工程名などは、表示手段3-1によって表示装置4上に表示される。

尚、第1図図中作業領域6は、各種処理を行う際の間接結果などを一時的に格納するものである。中央処理装置（CPU）7は、制御部3に格納されたプログラムに基づいて、後述する各種処理を実行するものである。プリンタ8は各種結果を印刷するものである。マスタファイル9は、上記の各種処理を行ううえで必要となる作業担当者、代理人、会社、発明者などに関する各種情報を格納したものである。

次に、第2図および第3図を用いて共通工程テーブル1-1および工程定義テーブル1-2の構成を説明する。

まず、第2図に示す共通工程テーブル1-1において、図中“共通工程番号”は、複数の一連の作業を遂行するために必要な最小公倍数的な工程例えば第1図出願、出願、出願公開、審査請求、サーチレポート、拒絶理由通知、意見提出、補正書提出、拒絶査定、審判請求、出願公告、異議申立、特許登録などの工程に対して付した番号であり、例えば第7図中④を用いて示す共通工程番号欄中の“A01”、“001”などである。

“共通工程名”は、その工程の正式名称またはこれに類似するものである。“省略共通工程名”は、共通工程名に対応するものであって、表示装置4上に少ない文字数で表示したり、あるいはプリンタ8から出力される印字文書中に少ない文字数で印字したりするための名称あるいは略称である。

“共通画面名”は、その共通工程に対応して表示装置4上に表示される画面の名称である。これら共通工程名、省略共通工程名、および共通画面名は、例えば第7図中④を用いて示す欄に夫々表示されているように共通工程テーブル1-1中に

日の区分(例えば“1”(出願日)、“2”(公告日)、“3”(登録日)、“4”(発生日))を登録するものである。

“工程名”、“省略工程名”、および“画面名”は、第2図を用いて既述した共通工程テーブル1-1中に登録されているものを複写したものである。尚、同一の工程名などがない場合には、特許プラクティス上同一の工程又は類似の工程と考えられるものを登録し、後述するように、後に適合するような名称に修正することが可能である。

“スタート区分”は当該工程が選択された国において始めに起こり得る工程か否かを表示するもので、“インディペンデント区分”は前後に発生する工程に対して無関係に起こりうるかそれに類似した工程であるか、あるいは特許法に無関係な工程であるか否かを識別するもの、“繰り返し工程区分”はその工程が同一の作業中で繰り返して生じるか否かを表示するもの、および“後工程区分”は当該工程の後に更に他の工程が発生するか否かの情報を格納するものであって、後工程区分が

記述されている。

次に、第3図に示す工程定義テーブル1-2において、図中“国コード”は、当該工程定義テーブル1-2が適用される国(一連の作業が適用される国)のコード例えば“US”(アメリカ合衆国)を登録するものである。

“ルート区分”は、当該工程定義テーブル1-2が適用される国に出願するルートの区分であって、例えば“ナショナル”(国別に個別に処理するもの)、“EPCルート”、あるいは“PCTルート”を登録するものである。

“工程番号”は、共通工程から選択されたその作業特有(固有)の工程に対して付された番号であって、共通工程番号に更に例えば下2桁を追加した番号を登録するものである。

“法定適用期間”は、当該工程が適用される期間例えば1975年1月1日から1983年12月31日を登録するものである。

“基準日区分”は、当該工程定義テーブル1-2に登録されている工程が適用される期間の基準

有”として登録されている場合、後工程の工程番号を格納するものである。

次に、第4図に示すフローチャートを用いて第1図図示構成の工程定義および工程選択の動作を詳細に説明する。

第4図図中①は、メニュー選択を行う状態を示す。これは、共通工程テーブル1-1あるいは工程定義テーブル1-2を作成するために必要な中間メニューを表示させるよう初期メニュー(図示せず)に表示されたメニューの中からメニュー選択を行うことを意味している。

図中②は、メニュー表示を行うために必要な処理を行う状態を示す。

図中③は、ルールブック更新メニューを表示装置4上に表示する状態を示す。これは、例えば第5図に示すようなルールブック更新メニューを表示することを意味している。

図中④は、国コードおよびルート区分をキーボード5から入力する状態を示す。これは、第5図図中④を用いて示す“国コード”の後ろの矩形部

域中に例えば“US”（アメリカ合衆国を示す国コード）を入力すること、および図中④を用いて示す“区分”の後ろの矩形領域中に例えば“0”（ナショナルを表す記号）を入力することを意味している。

図中⑤は、未入力定義を検索する状態を示す。

図中⑥は、図中⑤で検索した状態を表示装置4上に表示する状態を示す。これは、例えば第6図図中④を用いて示す“未入力”の欄に“N”（入力済を表すコード）あるいは“Y”（未入力を表すコード）を表示することを意味している。この入力済あるいは未入力であるか否かの表示は、フラグを参照するか、あるいは有意なデータが登録されているか否かを検索するかして行えばよい。

図中⑦は、共通工程定義（例えば第6図図中処理区分1G）、各国工程選択（例えば第6図図中処理区分1D）あるいは各国工程定義（例えば第6図図中処理区分1E、1I）のうちのいずれか1つを第6図図中左下部に示す矩形領域中に入力（例えば“1G”）する状態を示す。

程に関する各工程定義テーブル1-2への登録を行う。区分“1I”を選択した場合は、未入力工程の全て又は一部を連続して登録することができる。

図中⑧は、画面表示処理を行う状態を示す。

図中⑨は、共通工程定義を入力する画面を表示装置3上に表示する状態を示す。これは、例えば第7図図中最上段に示す共通工程番号、共通工程名、省略共通工程名、および共通画面名を表示した共通工程定義入力画面を表示することを意味している。

図中⑩は、共通工程番号および共通工程名などを入力する状態を示す。これは、共通工程番号として例えば第7図図中④を用いて示す欄に“A01”、“001”などを順次入力すると共に、入力した共通工程番号に対応づけて図中④を用いて示す欄に、共通工程名、省略共通工程名、および共通画面名を順次図示の如く入力することを意味している。

図中⑪は、登録を行う状態を示す。これは、図

図中⑥は、図中⑤で共通工程定義の区分（1G）、各国工程選択の区分（1D）あるいは各国工程定義の区分（1E、1I）のいずれが入力されたかを判別するものである。図中⑤で共通工程定義の区分（1G）が入力された場合、図中⑥ないし⑩の手順によって、夫々の一連の作業を遂行するために必要な最小公倍数的な工程を共通工程テーブル1-1に登録する。図中⑤で各国工程選択の区分（1D）が入力された場合、図中⑥ないし⑩の手順によって、共通工程テーブル1-1の中から当該一連の作業を遂行するために必要な工程のみを選択して工程定義テーブル1-2に登録する。図中⑤で各国工程定義の区分（1E、1I）が入力された場合、図中⑥ないし⑩の手順によって、工程定義テーブル1-2に登録されたものを修正追加、および法定適用期間などを登録すると共に、後工程がある場合には後工程を登録する。尚、区分“1E”を選択した場合、各工程番号（例えば“00101”）を第6図図中右下部の矩形領域に入力することで、選択された特定の工

図中⑪において入力した第7図図示のように共通工程番号に対応づけた共通工程名、省略共通工程名、および共通画面名を第2図に示す共通工程テーブル1-1中に登録することを意味している。

以上の手順によって、法制の異なる各国に対して行う事務処理工程の全ての場合をいわば最小公倍数的に1つの共通工程テーブル1-1中に登録する。これを利用して、一部が異なる複数工程を含む複数の作業（各国別の特許管理作業）を1つのシステムを用いて管理している。尚、以上の手順中、図中⑥の手順即ち特定の国の“国コード”や“ルート区分”を入力する作業は、最小公倍数的な共通工程を当該共通工程テーブル1-1中に登録する際には必ずしも必要ではない。また、以上の共通工程の登録作業は、予め共通工程テーブル1-1が用意されていれば、特に行う必要はない。

次に、各国工程選択について詳細に説明する。まず、共通工程定義と同様に図中⑥ないし⑩までの作業を行う。この際、図中⑥の工程において、

該当する国コード、ルート区分を入力することで、その国でかつそのルートの作業に関する工程を選択する。そして、図中④において区分“1D”を入力することにより、図中④で図中④を選択する。

図中④は、画面表示処理を行う状態を示す。

図中④は、各国工程選択を入力する画面を表示装置4上に表示する状態を示す。これは、例えば第8図に示すような工程選択入力画面を表示することを意味している。

図中④は、増加数を入力する状態を示す。これは、第8図図中④を用いて示す“増加数”の欄中に、例えば“01”を入力する状態を示す。増加数の欄に“01”を入力することにより、当該入力した増加数に対応する位置の共通工程番号で示される工程を選択してその工程に対応する共通工程テーブル1-1の内容を工程定義テーブル1-2中に登録するよう指示を発することを意味している。ここで、第8図図示の場合には、図中④で“US”（アメリカ合衆国）および“ナショナル”（0）を選択したので、アメリカ合衆国の特

なり、現工程数が“02”の場合には“01”と“02”とで2つの工程を区別している。

以上の手順によって、法制の異なる各国に対して行う全ての事務処理工程を、共通工程テーブル1-1の中から個別に選択して工程定義テーブル1-2中に登録することが可能となる。

次に、各国工程定義の修正追加および後工程の登録について詳細に説明する。まず、上述の共通工程定義および工程選択と同様に図中④ないし④までの作業を行い、図中④において、区分“1E”または“11”を入力する。

図中④は、画面表示処理を行う状態を示す。

図中④は、各国工程定義を入力する画面を表示装置4上に表示する状態を示す。これは、例えば第9図に示すような工程定義入力画面を表示することを意味している。

図中④は、各国工程定義を入力する状態を示す。これは、工程定義テーブル1-2中に定義して登録すべきデータを入力することを意味している。第9図図中基準日区分は、当該工程定義③によ

り、許商標序に対して行う一連の事務処理を遂行するために必要な全ての工程に対して、上記増加数を順次入力して工程定義テーブル1-2中に登録するよう指令を発する必要がある。また、その他の国の各ルートに関する工程を選択するときは、図中④の工程で該当する国コード、ルート区分を入力すればよい。尚、図中現工程数は、既に指令を発して登録を行った工程の数を示す。また、特許法の改正が行われた場合には、改正された工程名に対する増加数の欄に更に“01”を入力すると共に、この改正されたものが適用される期間を指定（後述するようにして第3図図中法定適用期間の欄に登録）することにより、新たな工程として工程定義テーブル1-2中に登録しておく。

図中④は、工程定義テーブル1-2中に登録する状態を示す。この場合、工程定義テーブル1-2中の工程番号は、対応する共通工程番号に更の下2桁を追加したものとなる。この追加した下2桁の番号は、現工程数に対応するものであって、例えば現工程数が“01”の場合には“01”と

て定義される工程が適用される期間の基準日を定義する区分であって、“1”（出願日）、“2”（公告日）、“3”（登録日）、あるいは“4”（発生日）のいずれか1つを選択して入力する区分である。例えば、“1”（出願日）が区分として定義されていれば、ある管理単位の出願日が該当する法定適用期間をもつ工程をその管理単位で選択し得る工程とする。法定適用期間には、上述のようにその工程が存在する期間を例えば法定適応期間1975年1月1日～1983年12月31日などの如く、FROMとTOとの2つの日付データを入力する。図中工程名、省略工程名、画面名は、当初共通工程テーブル1-1に登録されている共通工程名、省略共通工程名および共通画面名が複写された態様で表示されるので、当該工程定義③によって定義される工程が適用される国の法制に最も適合するものに上書きする態様で書き替えたり、括弧を用いて追加などして所望の形式に編集したりするものである。図中スタート工程区分は“出願”のように当該工程定義③によ

て定義される工程が最初に生じる工程であるか否かを定義する区分である。図中インディペンデント識別および工程区間は、「情報提供」のように当該工程定義(II)によって定義される工程が他の工程に対して独立に生じうるものであるか又は特許法とは関係なくユーザが設定した工程例えば「メモ」や「キーワード」であるか否か、および生じる場合にはその工程が他のいかなる工程との間でのみ生じ得るかの工程区間を定義する区分である。図中繰り返し工程区分は例えば「拒絶理由通知の受付」のように当該工程定義(II)によって定義される一連の作業中で繰り返し現れる工程であるか否かを定義する区分である。図中後工程区分は、当該工程定義(II)によって定義される工程の後に発生し得る後工程例えば出願・願審通知の後に発生する審査系の「拒絶理由通知書受付」などの工程の有り／無を定義する区分である。

図中④は、工程定義テーブル1-2中に登録する状態を示す。

図中⑤は、工程定義テーブル1-2中に後工程

の有りが登録されているか否かを判別する状態を示す。YESの場合には、図中⑥以下を実行する。NOの場合には、後工程の有りが登録されていないので、終了する。

図中⑥は、画面表示処理を行う状態を示す。

図中⑥は、後工程定義を入力する画面を表示装置4上に表示する状態を示す。これは、例えば第10図に示すような後工程定義入力画面を表示することを意味している。

図中⑦は、後工程定義を入力する状態を示す。これは、図中⑥で後工程定義を入力する画面として、第10図に示すような画面中に工程番号と工程名とが対応した態様で表示されるので、第9図図示工程の後に発生する可能性のあるものを、第10図図中<後工程>の有無(Y/N)欄中の所望の位置にカーソルを移動させ、キーボード5から「Y」を図示のように入力することを意味している。この第10図に示す後工程定義入力画面例中の工程名は、工程定義テーブル1-2に登録されている工程名が表示されている。

図中⑧は、工程定義テーブル1-2中に登録する状態を示す。

以上の手順によって、法制的異なる国に適合した態様の作業工程が、共通工程テーブル1-1中から抽出される態様で取り出され、工程定義テーブル1-2中に登録されることとなる。

尚、本実施例においては、工程選択によって、第4図図中④までの作業を行い、工程定義テーブル1-2として工程番号などを格納しておけば一応目的は、達せられる。

次に、第11図図示フローチャートおよび第12図ないし第15図を用いて後工程を利用した特許管理システムの構成および動作を詳細に説明する。

第11図において、図中④は、中間処理画面選択を行う状態を示す。

図中⑤は、中間処理を行うための画面表示処理を行う状態を示す。

図中⑥は、中間処理メニューを表示させる状態を示す。これは、例えば第13図に示すような中

間処理メニューを表示装置4上に表示させることを意味している。

図中⑦は、管理単位番号(外国整番)を入力する状態を示す。これは、例えば図中⑦で表示装置4上に表示させた第13図図中中間処理メニュー中の図中④を用いて示す矩形領域中に作業を管理する番号(例えば外国整番「S84P1000S00」)、および図中④を用いて示す矩形領域中に新規/変更を表す区分「1」あるいは「2」をキーボード5から入力することを意味している。ここで、新規とは新しいデータを入力する行為をいい、変更とは前に入力されたデータの修正を行う行為をいう。

図中⑧は、新規「1」が入力されたか否かを判別する状態を示す。YESの場合には、後述するように過去にデータが入力され、管理単位ファイル2中に登録されている工程のうち、最新の有為な工程を検索してこれに関連する有為な工程番号や工程名などを表示するために図中⑥ないし⑦を実行する。NOの場合(又は「2」が入力されている場合)には、管理単位ファイル2中に登録さ

れている全ての有効な工程を検索してこれに関連する工程番号や工程名などを表示するために図中のないし を実行する。

まず、新規「1」が入力された場合について説明する。

図中の④は、最新の履歴検索を行う状態を示す。これは、図中の④で入力した管理単位番号（外国登録）によってポイントされる第12図図示管理単位ファイル2中に登録されている過去に選択された工程のうち最新の選択日をもつ有効な工程番号を検索することを意味している。

図中の⑤は、工程定義テーブル1-2の検索を行う状態を示す。これは、第1に、図中の④で検索した最新の選択日をもつ有効な工程番号に対応する工程定義テーブル1-2の中から、後工程番号を読み出す。第2に、この読み出した後工程番号に対応する工程定義テーブル1-2を検索して法定適用期間などを読み出して、有効な工程番号のみを抽出する。以上のステップによって、管理単位ファイル2に登録されている最新の選択日をもつ有効

位ファイル2中に登録されている全ての工程番号を検索することを意味している。

図中の⑥は、工程定義テーブル1-2の検索を行う状態を示す。これは、図中の④で検索した全ての工程番号に対応する工程定義テーブル1-2の中から、工程名を読み出すことを意味している。

図中の⑦は、表示処理を行う状態を示す。

図中の⑧は、表示装置4上に工程の表示（履歴表示）を行う状態を示す。これは、例えば第14図（B）図中の①を用いて示す位置に夫々工程番号および工程名を表示することを意味しており、この管理単位の場合「00101」の「出願・願審通知」を表示して、変更処理の場合のメニューとなる。

次に、各工程で生じたデータを入力する場合について説明する。

図中の⑨は、工程番号を入力する状態を示す。これは、図中の④あるいは⑤で表示装置4上に表示させた第14図（A）または第14図（B）図中表示画面中の図中の①を用いて示す工程番号中からい

な工程番号に関連する有効（各国の法律に適合するもの）な工程号（後工程番号）および工程名（後工程名）などが検索されることとなる。

図中の⑩は、表示処理を行う状態を示す。

図中の⑪は、表示装置4上に後工程の表示を行う状態を示す。これは、例えば第14図（A）図中の①を用いて示す位置に夫々工程番号および工程名を表示することを意味しており、この管理単位の場合、工程番号「00101」の「出願」工程が既に処理済のため、第10図に「出願」の後工程として定義された「20101」の（審査系）拒絶理由通知書受付および「51001」の登録許可通知書受付の工程およびインディペンデントとして区分された工程を表示して、新規処理の場合のメニューとなる。

次に、変更「2」が入力された場合について説明する。

図中の⑫は、全ての履歴検索を行う状態を示す。これは、図中の④で入力した管理単位番号（外国登録）によってポイントされる第12図図示管理単

位ファイル2中に登録されている全ての工程番号の中から1つの工程番号を選択して、キーボード5から図中の①を用いて示す矩形領域中に入力することを意味している。

図中の⑬は、工程データ入力画面を表示装置4上に表示するための処理を行う状態を示す。

図中の⑭は、工程データ入力画面を表示装置4上に表示する状態を示す。これは、図中の④で入力した例えば工程番号「20101」（審査系）拒絶理由通知書受付）に対応して、第15図に示す工程データ入力画面を表示装置4上に表示することを意味している。第15図図中の①を用いて示す点線で囲まれた領域は、「20101」という工程（審査系拒絶理由通知書・拒絶査定）を処理する時の日付データを入力するためのものであり、図中の②は「20201」という工程（意見書・補正書提出）で生じた事件の日付データを入力するものである。

図中の⑮は、データを入力する状態を示す。これは、第15図図示工程データ入力画面中の所望の矩形領域の位置例えば特許庁の発送日の位置にカ

ーツルを移動させ、キーボード5から日付を入力することを意味している。

図中 ④は、図中③で入力したデータを登録する状態を示す。これらのデータは、第1図図中管理単位ファイル2中に格納される。

以上説明したように、新規"1"を選択した場合には、管理単位ファイル2中に登録されている工程番号のうち、最新の選択日をもつ有効な工程番号を検索し、この検索した工程番号に対応する工程定義テーブル1-2中に登録されている有効な後工程番号が読みだされていけば後工程の工程番号および工程名が表示される。このため、日付などのデータを入力しようとする必要な工程のみを容易かつ迅速に表示して、所望のデータを入力して管理することが可能となる。

また、変更"2"を選択した場合には、管理単位ファイル2中に登録されている全ての工程番号に対応する工程定義テーブル1-2中に登録されている工程番号が読みだされて、いわば履歴情報としての工程番号および工程名が表示されるので、

変更できるもの又は変更の必要な工程のみを容易かつ迅速に表示して所望のデータの変更を行うことができる。

(発明の効果)

以上説明したように、本発明によれば、各工程の後に発生する後工程情報を工程定義テーブルの後工程情報記憶領域に登録すると共に、上記複数工程のうち過去に選択してデータを登録した工程をその管理単位ファイルに登録しておき、この登録した工程の有効なものの中から最新の工程を選択してその工程の後工程を工程定義テーブルから検索して関連するデータを入力し得る画面を表示させ、所望のデータを入力する構成を採用しているため、複数工程を含む作業の工程選択を容易、迅速かつ誤りなく行い、日付などのデータを入力して複数回の特許管理作業などを誤りなく迅速に行うことができる。この際、詳細なルールが不明確であっても、入力作業を行いながらルールを充足して行くことができる。

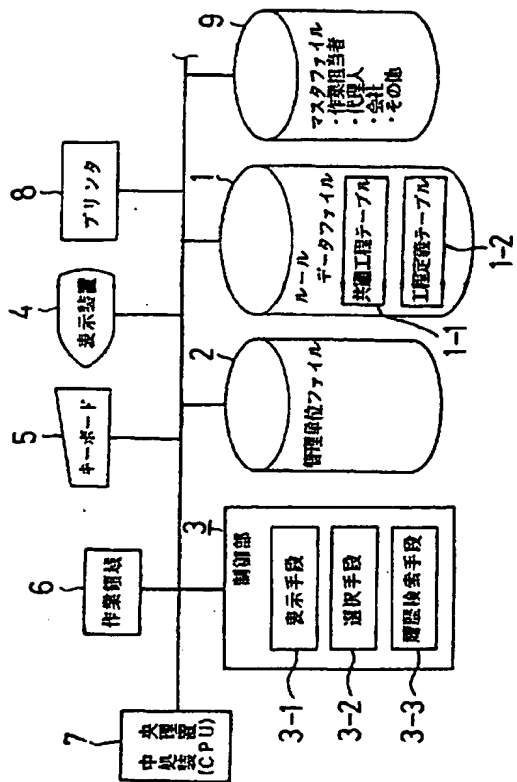
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の1実施例構成図、第2図は共通工程テーブル、第3図は工程定義テーブル、第4図は工程定義および工程選択の動作を説明するフローチャート、第5図はルールブック更新メニュー例、第6図は未入力定義表示例、第7図は共通工程定義入力画面例、第8図は工程選択入力画面例、第9図は工程定義入力画面例、第10図は後工程定義入力画面例、第11図は後工程の動作を説明するフローチャート、第12図は管理単位ファイル、第13図は中間処理メニュー例、第14図は後工程/履歴表示例、第15図は工程データ入力画面例を示す。

図中、1はルールデータファイル、1-1は共通工程テーブル、1-2は工程定義テーブル、2は管理単位ファイル、3は制御部、3-1は表示手段、3-2は選択手段、3-3は履歴検索手段、4は表示装置、5はキーボード、6は作業領域、7は中央処理装置、8はプリンタ、9はマスタフ

ァイルを要す。

特許出願人 ソニー株式会社
代理人弁理士 岡田 守弘



本実施例の1実施例構成図

図1

1-1	
共通 工程番号	共通工程名
	省略共通工程名
	共通画面名
共通 工程番号	共通工程名
	省略共通工程名
	共通画面名

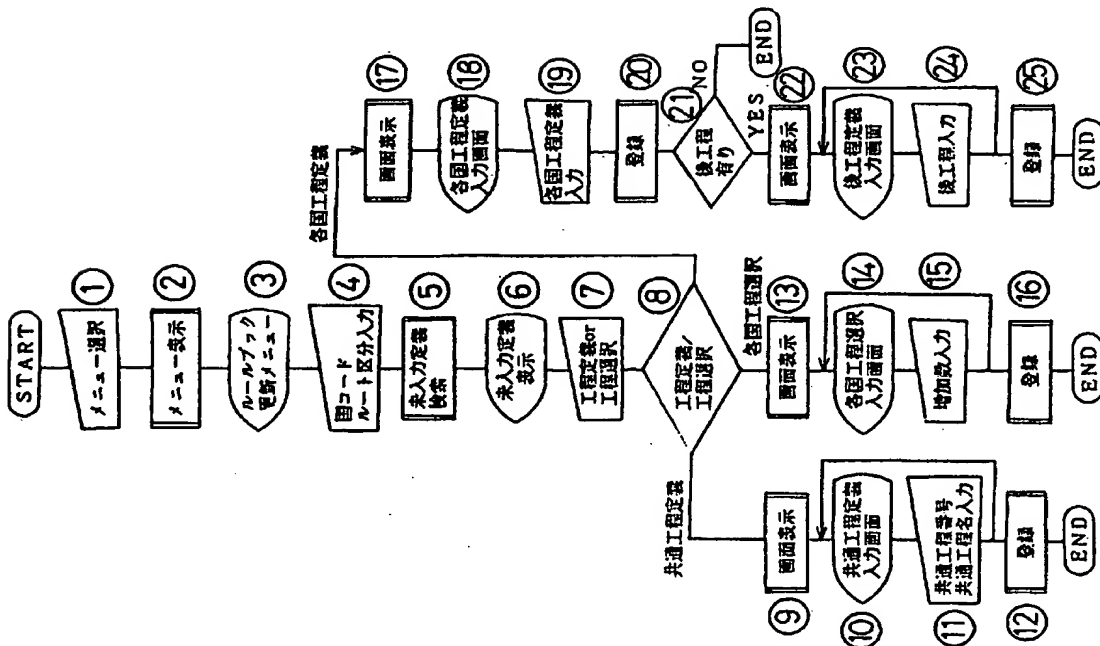
共通工程テーブル

図2

1-2	
図コード	ルート区分
工程番号	
法定適用期間	基準日区分
工程名	
省略工程名	
画面名	
スタート区分	インディペンダント区分
	工程区分
	繰り返し工程区分
	後工程区分
後工程番号	
後工程番号	
工程番号	
法定適用期間	

工程定義テーブル

図3



工程定義および工程選択の動作を説明するフローチャート

図4

(a) 国コード (0: ナショナル 1: EPC 2: PCT 3: 随時特許)
 区分 (ENTR)
 (b) 1. ルールブック作成 (新規・変更)
 2. 照会 (処理区分1または2につづけて入力) 未入力
 A: ヘッダー定義
 B: 権利期間定義
 C: 番号定義
 D: 工程選択 ~ 工程定義
 E: 工程定義 (一工程の定義)
 F: 期限日定義
 G: 工程定義 (各国共通)
 H: 日付定義 (各国共通)
 I: 工程未定義に対する入力処理
 J: 工程削除 (一工程の削除)
 9. 終了

ルールブック更新メニュー例

図5 5 図

国コード アメリカ合衆国
 区分 (0: ナショナル 1: EPC 2: PCT 3: 随時特許)
 (ENTR)
 1. ルールブック作成 (新規・変更) (c)
 2. 照会 (処理区分1または2につづけて入力) 未入力
 A: ヘッダー定義
 B: 権利期間定義
 C: 番号定義
 D: 工程選択 ~ 工程定義
 E: 工程定義 (一工程の定義)
 F: 期限日定義
 G: 工程定義 (各国共通)
 H: 日付定義 (各国共通)
 I: 工程未定義に対する入力処理
 J: 工程削除 (一工程の削除)
 9. 終了
 処理区分 1又は2でE又はJの時の工程番号

未入力定義表示例

図6 6 図

工程定義 (1) 日付 85/10/01
 国: US アメリカ合衆国 区分: ナショナル 前日更新日 85/07/01
 工程番号: 00101 基準日区分 (1: 出願日 2: 公発日 3: 登録日 4: 発生日)
 法定適用期間 (FROM) (TO)
 工程名
 管轄工程名
 画面名
 スタート工程区分 (Y: はい N: いいえ)
 インディペンデント識別 (Y: はい N: いいえ)
 工程区分 (S: SINGLE M: MULTIPLE)
 繰り返し工程区分 (Y: 有 N: 無)
 後工程区分 (Y: 有 N: 無)

工程定義入力画面例

図9 9 図

後工程定義 日付 85/10/01
 国: US アメリカ合衆国 区分: ナショナル 前日更新日 85/07/01
 工程番号: 00101 工程名
 出願・随時通知
 <後工程>
 有無 工程番号 工程名
 (Y/N)
 Y 00101 出願・随時通知
 Y 20101 (審判系) 拒絶理由通知書受付
 Y 20201 (審判系) 意見書・補正書提出
 Y 20301 拒絶査定受付 (FINAL)
 Y 20401 規則116条補正書提出
 Y 20501 アドバイザリー・アクション受付
 Y 20601 インターフュランス宣言受付
 Y 20701 ターミナル・ディスクリーム提出
 Y 20801 ディスクリーム提出
 Y 30101 拒絶査定不服審判請求書提出
 Y 30301 拒絶理由通知書受付 (審判系)
 Y 30401 (審判系) 意見書・補正書提出
 Y 30501 拒絶査定不服審判決定受付
 Y 51001 登録許可通知書受付
 Y 51101 登録

後工程定義入力画面例

図10 10 図

(d) (e) 共通工程番号
 共通工程名
 管轄共通工程名
 共通画面名
 A0 第一国出願
 00 出願・随時通知受付
 002 出願・随時通知 (同時予備審査請求)
 003 出願・随時通知 (予備審査請求)
 004 出願・随時通知 (同時予備審査請求)
 005 出願・随時通知 (予備審査請求)
 006 出願・随時通知 (予備審査請求)
 007 出願・随時通知 (予備審査請求)
 008 出願・随時通知 (予備審査請求)
 009 出願・随時通知 (予備審査請求)
 010 出願・随時通知 (予備審査請求)
 011 出願・随時通知 (予備審査請求)
 012 出願・随時通知 (予備審査請求)
 013 出願・随時通知 (予備審査請求)
 014 出願・随時通知 (予備審査請求)
 015 出願・随時通知 (予備審査請求)
 016 出願・随時通知 (予備審査請求)
 017 出願・随時通知 (予備審査請求)
 018 出願・随時通知 (予備審査請求)
 019 出願・随時通知 (予備審査請求)
 020 出願・随時通知 (予備審査請求)
 021 出願・随時通知 (予備審査請求)
 022 出願・随時通知 (予備審査請求)
 023 出願・随時通知 (予備審査請求)
 024 出願・随時通知 (予備審査請求)

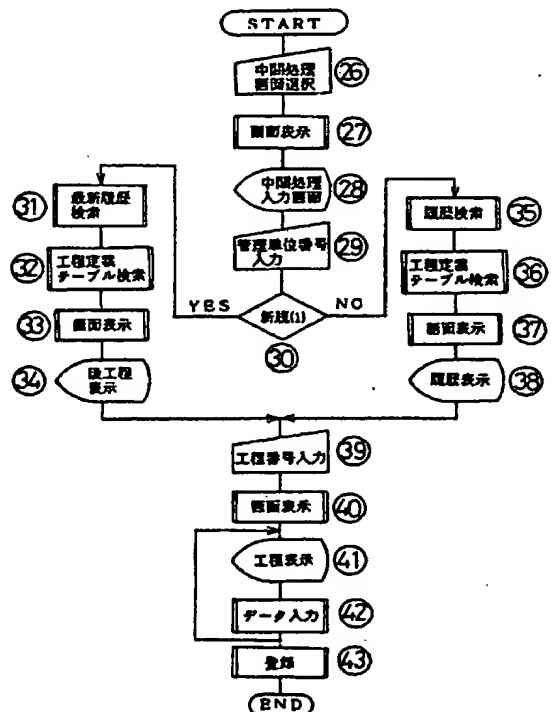
共通工程定義入力画面例

図7 7 図

(f) 国: US アメリカ合衆国 区分: ナショナル
 共通工程番号
 共通工程名
 管轄共通工程名
 共通画面名
 00 00 001 第一国出願
 00 00 002 出願・随時通知受付
 00 00 003 出願・随時通知 (同時予備審査請求)
 00 00 004 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 005 出願・随時通知 (同時予備審査請求)
 00 00 006 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 007 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 008 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 009 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 010 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 011 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 012 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 013 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 014 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 015 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 016 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 017 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 018 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 019 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 020 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 021 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 022 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 023 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 024 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 025 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 026 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 027 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 028 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 029 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 030 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 031 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 032 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 033 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 034 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 035 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 036 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 037 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 038 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 039 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 040 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 041 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 042 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 043 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 044 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 045 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 046 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 047 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 048 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 049 出願・随時通知 (予備審査請求)
 00 00 050 出願・随時通知 (予備審査請求)

工程選択入力画面例

図8 8 図



本工程の動作を説明するフローチャート

図11 11 図

管理単位番号	国コード	
書誌的情報		
工程番号	選択日	日付番号 年 月 日
00101	840104	001 840102

管理単位ファイル

図 1 2 B2

(g) (h)

外国番号	S84P100US00	区分		(新規: 1 変更: 2)	工程番号
工程番号		工程名		工程番号	工程名

中間処理メニュー例

図 1 3 B2

(i) (j)

外国番号	S84P100US00	区分	1	(新規: 1 変更: 2)	工程番号	20101
工程番号	工程名	工程番号	工程名			
20101 (審査系) 拒絶理由通知書受付		20601	インターフェアランス宣言受付			
51001 登録許可通知書受付		20801	ディスクレーマ提出			
		70101	関連資料			
		70201	情報提供			
		70301	破情報提供			
		80101	自発補正書(合上申告)提出			
		81001	メモ			
		82001	キーワード			
		83001	関連外国番号の入力			
		84001	実施照種入力			
		90101	最終処分			

(A)

(i) (j)

外国番号	S84P100US00	区分	2	(新規: 1 変更: 2)	工程番号	00101
工程番号	工程名	工程番号	工程名			
00101 出願・顕著通知						

(B)
後工程/履歴表示例

図 1 4 B2

新規 審査系拒絶理由通知書・拒絶査定 (アメリカ合衆国)							
外国番号 S84P100US00 名称 情報交換方式 (k) (l)							
	特許庁 発送日	代理人 発送日	特許部 受理日	代理人 期限日	E X Y/N	法定 期限日	
第 1 回	851201						
意見書・補正書提出							
2							
3							
4							
拒絶理由 (査定)							
§ 116 補正提出							
* インターフェアランス (コンフリクト)							
発生日 (1)		発生日 (2)					
* ターミナル・ディスクレーム				相手先外国番号			
		特許部発送日		特許庁提出日			
		特許部発送日		特許庁提出日			
依頼書出力 Y/N		引例入力 Y/N					

工程データ入力画面例

第 1 5 頁